

## 国衛研食品衛生管理部春日室長、日本学術会議副会長に

### —国際活動を担当—

広報担当 宮原 誠



日本学術会議事務局

2011年10月東京都港区で撮影

10月4日、当所食品衛生管理部の春日室長は第161回日本学術会議総会において、大西新会長により他の2人と共に副会長（国際活動担当）に指名され、承認されました。

春日室長は1959年生まれ。東京大学農学部 畜産獣医学科卒、同大学院 基礎獣医学・基礎畜産学で学位を取得。農学博士。同室長は2002年、国立感染症研究所食品微生物部から現在の室に異動。

専門分野は微生物学的リスクアセスメント、食品由来疾患の疫学等。学術会議においては、第2部生命科学の“健康・生活科学”分野で既に活動していました。一方、当所においては、WHO、内閣府の食品安全委員会の専門調査会などの専門委員に任命され、食品中の微生物リスク評価分野でレギュラトリーサイエンスを実践してきた実績を持ちます。また、2009年、学校給食の安全性向上に貢献し、文部科学大臣賞「学校給食120周年記念表彰」を受賞しています。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学等にわたる全分野の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員で構成されています。その役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、

#### 日本学術会議会員

新たに会員になるには現会員の推薦が必要で、推薦された人の中から会員選考委員会によって候補者の名簿が作成される。新会員候補者は幹事会と総会の承認を得た後、会長によって総理大臣に推薦され、総理大臣によって任命される。210人の会員の内、3年ごとに半数ずつ改選される。任期は6年、定年70歳。

③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発にあると規定されています。

その提言等は直接総理大臣に伝えられるものもあり、我が国の科学技術政策に反映され、国民はもとより、科学者にも大きな影響力を持つ国家的な会議として知られています。

このように我が国の科学技術政策の要である日本学術会議において、当所職員がその重責を担うようになったことは、本研究所の研究的・社会的なレベルの高さを示すものと同時にレギュラトリーサイエンスの重要性が社会的に認識されたものと考えられる事も出来ます。